かわさき阿波踊りで広報活動

自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所（所長　宮城英明1陸尉等）は、10月12日（土）、川崎駅周辺で行われた「第39回かわさき阿波踊り」に、海上自衛隊厚木基地に所属している「ちどり連」と共に参加し、広報活動を行った。

厚木基地の「ちどり連」は、初参加した昨年の演舞が好評だったため「今年もぜひ参加して欲しい」とかわさき阿波踊り実行委員より熱い出演依頼を受けての参加となった。川崎市役所前での初陣式では、神奈川地方協力本部長からの激励を受けて奮い立ち、会場では参加団体の中でもひときわ際立った気合十分の演舞を披露していた。

演舞者代表から「皆さん!! 応援してください!」との呼びかけに観客は拍手で応え、かわさき阿波踊りは冒頭から盛り上がりを見せた。演舞が進むにつれ、練り歩く踊り子たちと観客は一つになり、会場は熱気と興奮に包まれボルテージは最高潮に達した。

川崎出張所の所員も「ちどり連」の法被を着て参加し、連の後ろから厚木基地に所属する「P-1哨戒機」の模型を乗せたリヤカーを引き、自衛隊の活動と自衛官募集のアピールを行なった。

川崎出張所は、「これからも地域イベントなどを通して住民に自衛隊を広くPRし、防衛基盤の拡充に努めていきたい」としている。

「川崎みなと祭り」で護衛艦「くまの」を一般公開

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長　大谷三穂1等海佐）は、10月12日（土）、13日（日）の両日、川崎マリエン（川崎市川崎区）周辺で行われた「第51回川崎みなと祭り」に参加し、護衛艦「くまの」の一般公開を実施した。会場の川崎港東扇島ふ頭には2日間で6,000名を超える来場があった。天候にも恵まれ、来場者たちは、間近に見る護衛艦の迫力や、甲板から眺める艦橋や港の景色に歓声を上げていた。

別途行われた特別公開には、乗員の家族や自衛隊関係者などが招待され、乗員の案内で艦内や艦橋などを見学した。参加者のなかには神奈川地本のスクールモニターの大学生や、防衛大学校や航空学生を受験予定の高校生もいて、地本の広報官に「最新の艦艇の装備に驚きました」、「艦長の椅子に座らせてもらい、受験に向けてモチベーションが高まりました」と話す姿も見られた。

また、会場では高等工科学校の吹奏楽部、和太鼓部、ドリル部の演奏や演技の発表も行われ、観客は日頃の練習の成果に大きな拍手を送っていた。神奈川地本の広報ブースでは、災害復旧支援活動の写真パネルや南極の氷の展示、迷彩服の試着体験コーナー、広報官による入隊制度説明など様々な企画が実施され、大いににぎわった。地本キャラクターの「はまにゃん」「たま」「トップにゃん」が勢ぞろいして登場すると「かわいい!」と子供たちが集まり、「くまの」をバックに写真を撮っていた。

神奈川地方協力本部は、「市民の皆さんに自衛隊の活動についてご理解を深めていただけるよう、自衛隊を職業の選択肢の一つとして認知していただけるよう、これからも積極的に広報活動に取り組んでいく」としている。